

# スポーツ振興対策特別委員会会議録

令和2年7月21日

場 所 第4委員会室



令和2年7月21日（火曜日）

午前10時0分開会

会議に付した案件

○概要説明

総合政策部、福祉保健部

- 1. 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組について

○協議事項

- 1. 県内調査について
- 2. 県外調査について
- 3. 次回委員会について
- 4. その他

出席委員（12人）

委員	長	窪	菌	辰	也
副委員	長	河	野	哲	也
委員		星	原		透
委員		横	田	照	夫
委員		日	高	博	之
委員		日	高	陽	一
委員		脇	谷	の	り
委員		安	田	厚	生
委員		高	橋		透
委員		渡	辺		創
委員		来	住		一
委員		関	師	博	規

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

総合政策部

総合政策部長 渡邊浩司

総合政策部次長  
（政策推進担当）

重黒木 清

総合政策部次長  
（県民生活・文化祭担当）

酒 匂 重 久

総合政策課長

渡久山 武 志

国民スポーツ大会  
準備課長

井 上 大 輔

福祉保健部

障がい福祉課長 重 盛 俊 郎

事務局職員出席者

政策調査課主任主事 田 中 孝 樹

政策調査課主査 持 永 展 孝

○窪菌委員長 おはようございます。それでは、ただいまから、スポーツ振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程につきましてでございますが、お手元に配付の日程（案）を御覧ください。

本日は、総合政策部、福祉保健部から、第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組について御説明をいただきます。

その後、委員会の県内調査、県外調査等について御協議いただきたいと思います。このような取り進め方でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのように決定いたします。

執行部入室のため、暫時休憩いたします。

午前10時1分休憩

午前10時2分再開

○窪菌委員長 それでは、委員会を再開いたし

ます。

本日は、総合政策部、福祉保健部においでいただきました。

執行部の皆さんの紹介につきましては、お手元に配付しています出席者配席表に代えさせていただきますと存じます。

それでは、概要説明をお願いいたします。

**○渡邊総合政策部長** 総合政策部長の渡邊でございます。どうかよろしくをお願いいたします。

それでは、お手元の委員会資料を御覧いただきたいと思っております。

表紙の下のほうに目次がございます。

本日は、第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会に関しまして御説明をさせていただきます。

詳細につきましては、担当課長のほうから御説明をさせていただきますと存じます。

私からは以上でございます。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** それでは、御説明いたします。

配付資料の1ページを御覧ください。

1、第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会の概要について御説明いたします。

まず、(1)経緯等でございます。

まず、前提といたしまして、本県での2巡目国体につきましては、平成27年度に国体の開催申請書提出順序了解県として承認を得まして、いわゆる大会開催の内々定が決定したところでございます。

その後、この資料にございますとおり、平成29年10月30日に第81回国民体育大会宮崎県準備委員会を設置いたしまして、大会開催に必要となります各種方針や計画の策定、競技会場となる会場地市町村の選定などを進めることとしまし

て、現在に至っているところでございます。

また、令和元年7月には、準備委員会の名称を第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会と改称いたしまして、全国障害者スポーツ大会の開催準備と一体的に取り組んでいるところでございます。

次に、(2)組織でございます。

県準備委員会は、右側2ページの県準備委員会委員等一覧のとおり、知事を会長といたしまして、県議会や国・県・市町村の関係機関、また、教育・スポーツ・産業・経済など、県内の幅広い分野の関係団体などにより構成されております。

また、準備委員会の中に総会などの会議を設置しております。

資料の①の総会では、会則の制定・改廃や、事業計画・予算の審議・決定を行っております。

②の常任委員会では、大会開催に関する基本方針などの策定と各専門委員会への付託事項の審議を行います。隣の2ページの県準備委員会委員等一覧の中で、右側の欄に丸が付されておられる委員が常任委員でございます。

また、次の③専門委員会では、常任委員会から委任・付託された事項を審議いただいております。

ただいま御説明した内容を表したものが下の図、宮崎県準備委員会組織図でございます。

なお、専門委員会につきましては、現時点におきまして、図のとおり、総務企画専門委員会をはじめ、8つの委員会を設置しているところでございますが、下の注意書きにございますとおり、令和3年度に警備・消防・防災専門委員会を追加で設置する予定としております。

また、必要に応じまして各専門委員会の中に特定のテーマに関する部会を設置いたしまして、

検討を行っていただいているところでございます。

続きまして、資料の3ページを御覧ください。

（3）各専門委員会の役割でございます。

総務企画専門委員会では、総合的な計画の立案・推進、会場地の選定などにつきまして、競技運営専門委員会では、競技運営、競技役員の養成、競技用具の整備などを、施設整備専門委員会では、競技施設及び関連施設の調整、広報・県民運動専門委員会では、大会の広報・啓発、また、県民運動の推進などを、そして、全国障害者スポーツ大会専門委員会におきましては、全国障害者スポーツ大会の競技運営に係る計画の立案などを、それぞれ担っているところであります。

宿泊・衛生専門委員会以下3つの専門委員会につきましては、先日、7月6日に開催いたしました県準備委員会の常任委員会において、新たに設置が承認されたものでございます。

宿泊・衛生専門委員会では、配宿計画の立案、また、医療・救護体制の整備、輸送・交通専門委員会では、開・閉会式や各競技場における輸送計画の立案、式典専門委員会では、開・閉会式の企画・運営などについて、それぞれ検討していくこととしております。

続きまして、（4）主な取組の状況についてであります。

①会場地選定でございます。

アの正式競技・特別競技に関しましては、これまでに第7次選定までを終えまして、37競技46種目134種別の会場地を選定したところでございます。これは、全体の種別で申し上げますと約8割となっております。残りの競技につきましても、市町村や各競技団体と連携いたしまして、早期の選定に向け、引き続き取り組んで

まいります。

次のイ、公開競技につきましては、全7競技中5競技の会場地を選定したところであります。

次に、②競技役員の養成についてであります。

各競技団体が行っております中央講習会への派遣ですとか、県内講習会の開催など、審判員・要資格運営員の養成事業に対しまして、県準備委員会として支援を行っているところであります。

次に、4ページを御覧ください。

③大会の周知に向けた広報活動についてであります。

まず、ア、広報ツールの作成・配布でございます。

これまでに、大会開催の機運醸成を図るため、本県開催を周知する啓発用ポスターを作成いたしまして、各市町村、学校、大型商業施設などへ配布するとともに、バッグなどの広報啓発用品を作成いたしまして、様々なイベント等で配布等を行っているところでございます。

資料にございます左側の写真が啓発用ポスターとして作成したものでございます。

同じく右側の写真でございますが、昨年度、県内外に宮崎国スポ・障スポをアピールするという目的のため、茨城国体の本県選手団へ配布いたしましたランドリーバッグでございます。

次に、イ、大会マスコット、愛称・スローガンの決定についてであります。

マスコットキャラクターにつきましては、宮崎県の魅力を発信するシンボルキャラクターとして広く認知されております「みやざき犬」を大会マスコットとして活用することを決定したところであります。

また、大会の愛称とスローガンは、一般公募により募集を行い、県内外から合わせて1万点

を超える応募の中から、愛称を「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」、スローガンを「紡ぐ感動 神話となれ」にそれぞれ決定したところでございます。

今後、マスコットキャラクターの大会用のデザインと愛称・スローガンの規定の書体等を作成いたしまして、広報ツールとして活用しながら、大会のさらなる周知等に努めてまいりたいと考えておるところです。

次に、5ページを御覧ください。

④中央競技団体正規視察であります。

これは、国スポの開催地として内定を受けるため、競技会場となる施設の整備状況、また、整備計画などにつきまして、競技ごとに中央競技団体からの現地視察を受け入れるものでございます。

ここで、参考におつけしております右側の6ページの表を御覧ください。

表の左端にございますとおり、現在、本県は2015年（平成27年）に大会開催の内々定の段階にあるということでございますが、大会開催6年前であります令和2年度に正規視察を受け入れまして、大会開催5年前に文部科学省及び日本スポーツ協会へ開催申請書を提出いたしまして、大会開催の内定を得ることになっております。

5ページにお戻りいただきたいと思っております。

この表が現時点における正規視察日程（案）となっております。

競技団体の都合等々で非常に流動的でございます。今後はまた変更される可能性もありますことを御了解いただきたいと思っております。

8月のホッケーを皮切りにいたしまして、年間を通じまして中央競技団体の視察受入れを順次行うこととしております。

この正規視察におきまして、会場地市町村、県内の競技団体とともに、中央競技団体と実地で打合せを行いまして、今後の円滑な会場地整備につなげてまいりたいと考えております。

なお、会場地が未選定の競技につきましては、選定の後、視察を随時実施することとしております。

次に、7ページ、8ページを御覧ください。

大会開催準備総合計画でございます。

この計画は、先催県の実績などを参考にいたしまして、県準備委員会で決定したものでございます。

冒頭で御説明しましたとおり、全国障害者スポーツ大会との一体的な開催準備との観点から、令和元年7月に計画の名称を変更し、障スポに関する内容を追記したところでございます。

今後、取組の進捗ですとか全体の情勢の変化を見極めながら、適宜見直しを行うこととしております。

特に、現在、今年の秋に開催予定でありました鹿児島国体が延期の方向で調整中というところでございますが、本県への影響が大変気になるところでございますけれども、その方向性が分かり次第、適切にこの計画も見直しをかけてまいりたいと考えておるところでございます。

次に、9ページ、10ページを御覧ください。

会場地市町村の選定状況一覧でございます。

先ほど御説明いたしました正式競技の第7次選定、公開競技の第1次選定までを反映したものととなっております。

表のうち、市町村の欄と開催予定施設の欄が空白となっているものが、まだ会場地選定が済んでいない競技となります。

続きまして、11ページを御覧ください。

市町村ごとの実施予定競技を地図で示したも

のになります。

現在、美郷町、諸塚村、椎葉村、西米良村での実施競技がございませんが、今後、デモンストラーションスポーツや文化プログラムなどにおきまして実施の御検討・御協力をお願いいたしまして、できるだけ県内の全市町村が国スポ・障スポに関わっていただくことで、全県的な盛り上げにつなげてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、12ページを御覧ください。

2、国民スポーツ大会に向けた県有主要3施設の整備についてであります。

まず、(1)の陸上競技場であります。

①の整備概要につきましては、都城市の山之口運動公園に都城市と共同で陸上競技場を整備することとしております。敷地面積は約24ヘクタール、概算工事費は214億円で、うち県発注工事が154億円であります。

②の今後の主なスケジュールでございます。

令和2年7月から造成工事に着手いたしまして、令和3年3月に実施設計完了、同じく令和3年12月に主競技場の建設工事に着手、令和7年3月に陸上競技施設の完成を予定しているところでございます。

次に、(2)の体育館であります。

①の整備概要ですが、延岡市民体育館の敷地に延岡市と共同で体育館を整備することとしております。敷地面積は2万5,110平方メートル、概算工事費は約83億円であります。

②の今後のスケジュールでございます。

令和2年12月に実施設計を完了いたしまして、既存多目的室の解体に着工いたしまして、令和3年10月に建設工事に着手、令和4年にサブアリーナ供用開始、令和7年3月に体育館完成を予定しているところでございます。

次に、13ページを御覧ください。

(3)のプールであります。

①の整備概要ですが、宮崎市の県有地にPFI事業を民間収益施設の整備と一体的に整備することとしております。敷地面積は3万1,400平方メートル、概算工事費は本体の工事費になりますが、約98億円でございます。

②の今後の主なスケジュールであります。

PFIの実施になった場合ですが、令和2年9月に特定事業の選定について、議会に報告いたしまして、令和2年11月に入札公告、令和3年4月に技術提案書を受け付けまして、令和3年6月に落札者の決定・公表、令和3年10月に事業契約の締結、そして、令和6年12月にプールの完成を予定しているところでございます。

次に、(4)の県産材利用の方針についてであります。

県有主要3施設につきましては、公共建築物等木材利用促進法及び県産材利用促進に関する基本方針の趣旨を踏まえまして、可能な限り木質化を図ることとしております。木材の特性を利用し、施設の屋内部分に利用する計画としているところでございます。

①の陸上競技場につきましては、エントランスホールやトレーニング室などに宮崎らしい空間演出を行うため、外部からも見えるように内装を木質化します。また、貴賓室や会議室等にも積極的な木質化を行う計画としております。

②の体育館につきましては、屋根部分に木材と鉄骨のハイブリッド構造を採用することとし、また、エントランスホールや多目的室等の内装木質化も図ることとしております。

③のプールにつきましては、エントランスホールやトレーニング室などに木材の利用を促すため、PFI事業における要求水準書に木質化

を明記することとしております。

国民スポーツ大会準備課からは以上でございます。

**○重盛障がい福祉課長** 障がい福祉課でございます。

全国障害者スポーツ大会開催状況について御説明いたします。

資料14ページをお願いいたします。

（1）専門委員会についてでございます。

先催県におきましては、開催3年前から5年前にかけまして障害者スポーツ大会開催に向けた準備のための委員会を設置しておりますが、本県におきましても、開催6年前に当たります昨年12月16日に第1回の全国障害者スポーツ大会専門委員会を開催し、本資料の7ページ、8ページにあります開催準備総合計画のうち、全国障害者スポーツ大会の全体計画について審議をしたところでございます。

なお、今年29日には第2回の専門委員会を開催する予定でありまして、そこでは会場地選定の進め方や開催に向けた課題を整理していくこととしております。

次に、（2）会場地選定状況でございます。

今年度より会場地の選定に着手しており、選定方法といたしましては、国スポ・障スポの準備委員会が定めた会場地選定基本方針にのっとり選定することとしております。

具体的には、国民スポーツ大会と同一の競技につきましては、原則として国民スポーツ大会と同一の会場を使用することとしております。

しかしながら、同一競技でありましても、会場市町村が複数箇所にあたっていたり、中には国民スポーツ大会にはない競技もございます。

さらに、閉会式には全員が参加する必要がありますことから、「全国障害者スポーツ大会の会

場地選定には、選手等の負担軽減の観点を考慮する」という方針を定めたところでありまして、様々な条件等を総合的に判断しながら、令和3年度中には選定を完了することとしております。

（3）実施競技におけるチーム整備状況でございますが、全国障害者スポーツ大会では、参考の表にありますとおり、個人7、団体7の合計14競技が実施される予定でございます。

今年度より、参考資料一番右の欄にバツと記載がしてありますけれども、この4つの競技の整備に向けまして、県外講師を招いての指導者養成や体験会を実施していく予定にしております。

さらに、そのための広報手段としまして、これまでホームページでの広報、それから県内の小・中学校の特別支援学級や県立特別支援学校に対し募集をかけているところでございますが、それらに加えまして、障がい児・者の福祉施設などへも募集を呼びかけているところでございます。

なお、本県では、本県での開催11年前に当たります平成27年度から体験会や記録会を開催し、選手の発掘、指導者の養成に努めているところでございまして、本大会を契機としまして、より多くの障がいのある方々がスポーツに親しむことのできる環境づくりを推進してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

**○窪菌委員長** ありがとうございます。

執行部の説明が終わりました。

御意見、質疑がございましたら御発言をお願いいたします。

**○渡辺委員** もう開催地が決まっている中で不勉強な質問で恐縮なんですけれども、既にどこかで話が出ているのかもしれませんが、素直に



開催地を見たときに、プロ野球のキャンプやWBCの試合をやるような宮崎県内の競技場が、野球やソフトボールで一切使われていないのは、ほかのイベントとの関係があるとか、何か理由があるのでしょうか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 今、御指摘のありましたように、例えば、木花運動公園の状況を例に取りますと、まだ会期が正式に決定しているわけではございませんが、国スポが想定される時期に、例えばプロ野球のフェニックス・リーグの受入れなどが想定されるといった事情は伺っております。

あと、基本的に、会場地を希望される市町村と、競技団体の希望が合致したところを会場地の選定ということで決定しております。それぞれ御判断や御事情があると聞いております。

**○渡辺委員** 開催自治体の希望というのもよく分かるんですが、であれば、例えば、もともと国スポの誘致をしようという段階から、木花運動公園や宮崎市の生目の杜の野球場は、プロ野球等のイベントの関係等で使えないという前提で考えていたという理解でいいのかというのがまず1点目。

それと、市町村等の希望というのは大事なことだと思うんですけども、長い年月にわたって宮崎県で投資して整備してきた立派なスポーツ施設を全国の大会——国スポという機会等において、その存在も含めてアピールするというのも一つの観点かなという気はしています。決まっていることなのでとやかく言うつもりではないんですけども、せつかなので、そこの整理を改めて伺っておきたいと思えます。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 申し訳ありません、そもそもの当初の意思決定の流れまで承知していないところもございますけれども、

今、各競技団体、市町村等と打合せする中では、当然、国スポの成功と大会開催の成功ということに向けてやっていくのですが、現在のスポーツランドみやぎきとして受け入れている既存のものに、できるだけ支障のないように——宮崎はいつでもできるんだというようなところもしっかり残して、どちらも両立するような感じで取り組んでいるのが実態であると理解しております。

**○渡辺委員** 分かりました。結構です。

**○日高博之委員** 私もこの件については常任委員会で質疑をさせてもらったんですけども、NPBにこの旨をちゃんと伝えて、使えるか使えないのかという協議をNPBとされて、サンマリスタジアムやアイビススタジアムはフェニックス・リーグが使うという確認をした上で、結論に至ったということで理解してよろしいでしょうか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 申し訳ございません、正式にそういった調整をしたのかというのは把握してございません。

**○日高博之委員** いや、それはおかしいと思うんです。理由はあれでしょう。フェニックス・リーグでしょう。主催者はNPBです。NPBと話したら、もしかしたら、国スポをやる年はその分ずらしていいですよと言うかもしれない。今年はプロ野球は1か月ずれますけれども、いろんな形でソーシャルディスタンスを取っていった時点で、日程も大分変わってくる可能性もありますよね。そのあたりの確認をした上で、NPBが使いたいと言うならば譲りますよと、NPBがずらしてもいいと言ったら、サンマリスタジアムを使わない手はないと思うんです。だから、その確認をしっかりと取らないと納得かないです。僕が直接聞いてもいいですけど

も。そこがあつてからの選定だと思うので、ここは確認のための協議が必要かなと思う。

それと、選定状況の一覧を見てると、水泳は別として、バスケット少年男女、自転車ロード、正式競技でいくつか空白がありますよね。これは決まらないんですか。要請は来ているんですか。どういう意味でまだ選定に至っていないのかということを知りたいと思います。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 未選定の競技につきましては、それぞれ競技ごとに事情があるようでございます。まず一つは、例えば、水泳のアーティスティックスイミングなどは、会場地として使える施設が県内に今のところございません。あと、ソフトボールの女子でございますとか、そのあたりは競技団体の御意向と会場地市町村の意向が合致していないところがありまして、今後どうするのかなというところで今引き続き検討・協議をいただいているという状況でございます。

**○日高博之委員** あと、バスケットとロードはどうですか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** バスケットボールにつきましても、会場地市町村の施設整備の状況ですとか、そのあたりがまだ固まっておらず、今のところ決定に至っておりません。

あと、自転車につきましては、これも競技団体の当初の御意向が市町村の意向となかなか合致しなかったもので、また別の団体と協議を続けていらっしゃると伺っております。

**○日高博之委員** まず、バスケットは日向市のことを言っているのかというのが一つ。もう一つが、カヌーはどうなっているんですか。カヌーは天神ダムとかいう話もあるようですが、どこ調整するんですか。宮崎市との調整ですか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 最初にお尋

ねのありましたバスケットボールは日向市も関連がございます。

カヌーにつきましては引き続き協議を行っているところでございますけれども、カヌーの競技団体から、常設のカヌー競技場を何とか造っていただきたいという御要望がございまして、会場地市町村のほうからは、仮設であれば検討ができるということで、今のところ、意向が合致していないというところでございます。

**○日高博之委員** そういう意見は分かりました。でも、ずっと調整していたらいつまでたっても決まらないですが、いつ頃までに決定するという大体のめどがあるんですか。大まかにこの辺ぐらいまでというのがあるのか。その辺をお聞きいたします。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 一応、めどとしてはできるだけ早くというところで、今年度中には何とか未選定競技については選定を進めたいと考えているところでございます。

**○日高博之委員** ぜひ早めに進めていただきたい。この間もちょっと話があったんですけど、なかなか市町村も財源がないものですから、可能なところである程度の腹案を考えておくべきだと思うんです。そこが駄目だったらまた考えないといけないわけですから、腹案も当然持つておかないと、ずっと空白があつたりして心配な部分が正直あるわけです。

それと、繰り返しになりますが、サンマリンスタジアムやアイビススタジアムを使わないこと自体が大体もう訳が分かりません。ほかの競技場が手を挙げたというよりも、内容的にはまずそこができないからどうですかみたいな感じでいったと思うんです。ここはもともと使えないのに使わないわけでしょう。空いていても使えないということはまずあり得ない話です。県

外から来る方は、巨人・ソフトバンクのキャンプ地とかで試合をしたいなと思うんじゃないですか。前に、準決勝・決勝ぐらいはサンマリンスタジアムとかでやるのはどうかと常任委員会で提案したんですけれども、それは検討しますという回答でした。まだ検討はしていないと思いますが。だから、日本プロ野球機構との調整はどうなっているんですか。そんなふうにするのであれば、フェニックス・リーグと国民スポーツ大会はどっちが大事ですか。1,000億円近い金をかけておいて、国民スポーツ大会では使わないというのは、何かちょっと違うなと思うんですよね。それは総合政策部で確認をしてもらわないといけないです。

**○渡辺委員** 今の日高博之委員の御指摘は県民感覚からいっても極めて妥当だと思うんです。県費をたくさん投入して施設整備をしてきた、言ってみれば宮崎の自慢の、誇りのような施設を、数十年に1回のこの機会に全く枠外にしてしまっている。使おうと思えば、工夫の余地はいろいろあると思うんです。先ほどおっしゃっていたように例えば決勝戦だけでもとかですね。だから、そこを除外してやらない、使わないというのであれば、それは納得・理解ができる理屈立てというか、きちんと説明が通っていないと——今、日高博之委員が言われた野球であれば、プロ野球との関係等が理由なんだろうなと想像はつくにしても、実際そうなのかというのを確認されていないと言われてしまうと納得ができないですよね。大変十分な付度だと言われればそこまでかもしれませんが、本当に使えないのかというやり取りもできているかどうか分からないまま、高校野球は日南でやります、というのでは、何のためにウン十年かけて、今度新しく造る施設もそうですが、多額の投資をし

て県有財産として持ってきたもの、もしくは宮崎市の財産として持ってきたものの活用を全く検討してなくて、最初から度外視だという話では理解ができない。今から間に合うことなのかどうか私は分かりませんが、そこは必要な観点なんじゃないのかなという気がするんです。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 私が不勉強な点もあって申し訳ございませんでしたが、基本的には、国スポにつきましては、特に会場地の運営でございますけれども、正式競技になりますと、市町村で受入れの実行委員会を立ち上げていただかないといけませんので、市町村にも全面的に御協力をいただかないと国スポは成功しない、というところがございます。

そういった中で、当初、今、委員の皆様から御指摘がありましたような調整をうまくやれたかどうかというのはあるんですけれども、市町村からまず希望を出していただく中で、競技団体との意向が一致したらめでたく決定というような流れで来ておったと理解をしております。

したがって、特定の競技とかの会場について、私ども県のほうで特段の指定をしたりとかいうのはなかなか難しかったのかなという気はしておるところでございます。そのように決まりました会場地市町村につきましては、予定どおり、決定した内容で準備を進めさせていただければありがたいと考えております。

**○渡辺委員** どの市町村がどの競技の開催地を希望したのかということは情報公開されていないわけですよね。少なくとも議会にいる我々も分からないわけです。水面下の話はあるかもしれませんが、公式には伝えられていないんです。国体には国体のルールがあるんでしょうし、なおかつ市町村の大きな協力がないと成り立たないことも事実だと思います。

でも、今の御説明の理屈だけで通すのであれば、なぜ県が仕切ってやるんですか。スポーツランドとしての推進を今までずっと図ってきて、施設整備もしてきた県の立場や意向、意図が働かないのであれば、県民には理解ができない。市町村の意向だから、市町村がやりたいかどうかの問題があるので、そこはちょっと私たちの手の及ばないところです、という今の御説明ではなぜ県が仕切るのか理解できないですね。

この瞬間の国体の話をしているんじゃないで、この数十年間をかけて宮崎県は何を考えて施設整備をしてきたのかと、そこが問われているわけです。それは県民の誇りでもあるし、野球に限らず、スポーツランドとしていろんなキャンプが行われることでも県民の気持ちが醸成されて長い間歩んでいるんです。その一番分かりやすい発露の機会としての国民スポーツ大会の場面で、今言っているような理屈だけで、この施設を使わないのは何でなんだろうという疑問が残ったまま、なおかつ、もう繰り返しはやめませんが、先ほど日高博之委員がおっしゃったように、プロ野球のフェニックス・リーグが理由だということを十分ににおわす答弁を県はされているのに、じゃあそうなのかという確認すらしていません、という状態でそういうことだけを発信されているのは過ちだと僕は思います。ちゃんと確認をされて、どうしても譲れない——フェニックス・リーグも宮崎にとっては大事な観光資源でもあるし、単年度のことではなく長い関係性のこともあるので、それを重視しなきゃいけない、というのは考え方として分かんなくはないんです。しかし、確認もしていないと議会で言ってしまうと、それが理由なのでと言う。さらには、今おっしゃったように、市町村が手を上げるか上げないかの問題な

ので、県としての調整機能には限界があるみたいなお話だと、成功することが一番大事なので、妥協というか落ち着く線はどこなのかは別にして、ちょっとこれは理解を得られないという気がしますので、これも意見として申し上げておきたいと思います。

**○星原委員** 今の二人の意見は分かるんですけども、もともとスタートするとき、今回の国体は分散型で、全県下でやろうという趣旨だったと思うんです。それで、各市町村に名のりを上げさせたわけで、いま決まっている競技場は全く使えないような場所じゃなくて、十分国体が行える競技場になっているはずですよ。そういう目的で今回の国体はやろうとなっていたわけです。そうすると、国体で競技場を受け持ったところは、今使っている施設が古ければ少し改装したりとか、いろんなことをやって、宮崎県に来てもらった人たちと全県下で触れ合いや交流ができるということで、市町村が手を挙げたということだと思うんです。でなければ、宮崎市で前回大会をやっているわけだから、施設もいいのがいっぱいできているので、前回と同じで、各種目、いい施設から決めていくということで、そのどっちかだったと思うんです。

だから、手を挙げたところはそれなりの準備ができる、自分のところでやりたいという希望を取ってこうなったんじゃないかなと思うんだよね。だから、今になってそういうことを言っちゃって、最初のスタート時点で分散型じゃないなら、全てが木花の会場が一番いいということはみんな分かるから、木花でできるものは全部そこでやって、じゃあ、次にほかの施設でどこがいいかという形で、いいものから順番に決めていく、ということになるんだろうけれども。今回ののは多分、分散型で宮崎県全体の中でいろ

んな受入れというか、交流とかいろんなことを狙ってやっていくのが目的だったんじゃないかなと私は思うんですけども、その辺はどうだったんですか。

**○重黒木総合政策次長（政策推進担当）** 今御質問いただいている、野球をどの会場で行うのかということですが、課長が御説明しましたように、国スポの会場地選定については一定のルールがございますので、そのルールの中で市町村と競技団体が話し合っただけで決めていくことになっております。結果、野球の会場について、サンマリスタジアム等を持つ宮崎市は手を挙げてこなかったということがございます。その背景にどういうことがあったのか、NPBのフェニックス・リーグ等の問題があったのか等々については確認すべきことであつたと思っておりますので、そこは改めて確認をしていきたいと思っております。

その上で、星原委員の御質問にありましたように、今回の国スポにつきましては、スポーツ団体の意向もございませぬけれども、国スポを契機に老朽化している各地の既存の施設に少し手を入れてしっかり使えるようにすることで、スポーツランドの全県展開というのが大きな課題になっておりますので、スポーツランドの全県展開にも資するようなスポーツの拠点を県内各地につくっていかうということがございます。実際の会場選定に当たっては、おっしゃるように、各地にいらっしゃる方々との交流等につなげていきたいといった、いろんな狙いがある中で、競技団体の意向もあつて、現在はこのような会場地選定になっているというところがございます。国スポを全県的に展開していくという方針については星原委員のおっしゃるとおりでございます。

**○星原委員** 今、次長は確認していくとかいろんなことを言っているけれども、もうここに選定したという形であなたたちは報告しておいて、今からいろんなことを確認してどうこうって変更ができるの。そんな問題じゃないと思うんだよ。もうここに選定した以上は、その会場で立派に大会が開けるように県と市町村が連携を取って、改装したり、いろんな手当てをすべきところはそういうことに取り組んだりする時期であつて、今の答えは、今さらその当時の選定状況を聞いてどうだったとやっている前の段階の話だよ。

そうじゃなくて、もう競技団体も市町村も納得して決めているわけだから、その段階でどうやたらうまくいくかの話に持っていくと、またぶり返したようなことをやっていたら、そんなことじゃあ駄目よ。

**○重黒木総合政策次長（政策推進担当）** 委員のおっしゃるとおりでございます、今さら会場地を変えるというつもりは毛頭ございません。

ただ、会場選定の背景にどのようなことがあつたかをきちんと聞いていなかったという御指摘はしっかり受け止めまして、今後の会場設営や大会開催に努力してまいりたいと思っております。

**○星原委員** 要するに、結果的には、市町村に声をかけて、宮崎市が野球場において手を挙げなかったというわけでしょう。我々県議会のこの委員会がどうのこうの言える問題ではなくて、もともとの投げかけが、さっきから言うように、今回の国体は分散型でそれぞれ地域全体を挙げてお迎えして大会をやろうとしていて、手を挙げる種目が宮崎市にいっぱいあれば経費もかかる。準備するにもいろんなこともあるから、手を挙げていないのかもしれない。野球をやるん

だったらいい施設が宮崎市にあるというのはみんな認めています。そういうところをキャンプに利用しているわけだから。そういう目的でやる国体なのか、それともいろんな施設をうまく使いながら全県下でやるのか、そのあたりをあなたたちがはっきりちゃんとつかんでいて、説明するときには言わないからおかしいことになる。

**○重黒木総合政策次長（政策推進担当）** 大変厳しい御指摘をありがとうございます。おっしゃるとおりでございます。今回の国スポ大会に向けて大きく2つの面があると思っております。多くの方々に来県いただいて、県の魅力をPRできるというところが一つです。それと、これを契機にスポーツの力を全県的に展開していった、県内の競技力の向上ですとか、スポーツを生かした観光の振興、あるいはスポーツランドみやざきの全県展開、今後の本県の観光を含めた強みに生かしていく、という2つの側面があったと思いますので、それを踏まえて会場地選定や今後の運営の準備を進めていきたいと思っております。

**○日高博之委員** フェニックス・リーグと国体は日程がかぶるんですか。かぶるんだったら宮崎県全体の宿泊が相当困るはずですよ。フェニックス・リーグはホテルを相当取りますよ。その辺の調整もできているんですか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 現段階で宿泊・交通等々についての準備はまだ取りかかっておりませんが、いずれにしても、国スポの大会開催に支障がないように調整をすることとしておるところでございます。

**○横田委員** 中央競技団体の視察があるということですが、この視察を受けた結果、内定が受けられなかったということもあるんでしょうか。それとも、もし何か不備があったら、

中央競技団体からいろいろ指導を受けて、それを改良して内定をもらうとか、そういうことになるんでしょうか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 最初の御質問ですが、正規視察の関係で内定が受けられなかったというのは、私どもが調べている範囲ではございません。6年前に中央競技団体の正規視察を受け入れて、委員からお話がありましたように、施設について具体的に、国スポでこの部分は整備していただかないと駄目だと、指摘を受けた分については対応することとなります。それ以外に、もし可能ならばといった競技団体からの我々の地元に対しての要望とかもたくさん頂く中で、先催県のお話では、全部はなかなかできないにしても、できるだけおもてなしというんでしょうか、そういった部分も含めて準備していくと聞いております。

ですから、今回の正規視察で、例えばどのくらいの規模の施設改修が必要なかが分かり、大卒の今後の予算化の準備とかにもつながりますので、今回しっかりと対応してまいりたいと考えております。

**○横田委員** 多分、観覧席のこととかいろいろあると思うんです。まだまだ何年も先の話だから、それは多分、こういう計画でやりますとかいうことでいいんじゃないかなとも思うんですけれども、よく読んだら、内定を受けるための視察だから、今回内定が決まるというわけでもないですよ。これからいろいろ改良を加えながら、不備なところを直していきながら最終的に内定をもらうと、そういう考え方でよろしいんですか。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 今のようなお考えで結構でございます。

内定の後には決定という段階がございまして、

その段階になると、ある程度しっかりと目に見えた段階でないといけないのかなと思いますけれども、今回はあくまでも内定のため、今後の決定に向けて、スムーズに地元の準備が進むように設定されていると理解をしております。

○安田委員 まだ1町と3村で会場選定が決まっていない。こちらは全県下で行うということですが、どのような町村から希望が挙がっているのか。また、どのような競技が考えられるのか。参考までに教えていただきたいと思ひます。

○井上国民スポーツ大会準備課長 国民スポーツ大会の正式競技、公開競技のほかに、デモンストレーションスポーツという分野がございます。これがデモンストレーション競技です、というのが決まっているわけではなくて、各県の大会ごとに、地元の競技団体の方と市町村と意向が一致して開催するという性質のものでございます。例えば、鹿児島で予定されたものと、ウォーキングや遠泳、サイクリング、ジャズ体操、ディスクゴルフ、ドッジボール、ビリヤード、フライングディスク等、幅広い競技に手を挙げられることになっております。

今、本県ではそういったものを投げかけている段階でございますが、まだ決定というものは無いんですけれども、先ほど申し上げた市町村等で何かアイデアを出していただければいいのかなと考えております。

○安田委員 各市町村では、施設や宿泊施設があまりないということで、受入れ体制がなかなかうまくいっていないんじゃないかなと思ひているんですけれども、何とぞ県のほうで、これからゴルフとか、ボウリングとか、それぞれのところで全県下で取り組んでいけるような体制をつくっていただきたいと思ひますので、どう

ぞよろしくお願ひします。

○日高博之委員 国体の開催時期というのは大体10月ですよ。どのあたりを予定していますか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 国体の本大会は9月中旬から10月中旬までの11日間以内と決まっておるところでございます。

○日高博之委員 さっきの調整するということは、フェニックス・リーグの時期とかぶらないようにやるということですね。

○井上国民スポーツ大会準備課長 国スポの競技の会場地が決まりましたら、支障がないように調整を行うということでございます。

○日高博之委員 フェニックス・リーグは球団が十何チームとホテルを占領しますから、宿泊だけは調整しないと、せっかく国体で来た人たちが泊まれないです。宮崎ではなく鹿児島に泊まらないといけなくなったり、いびつなことが起こる可能性がある。決まったものはしょうがないですが、宿泊は大変重要だと思ひるので、その辺は調整してください。

○井上国民スポーツ大会準備課長 先催県のお話を聞きますと、例えば民泊等も含めて調整を行っていたということでございますので、今の御意見を踏まえて対応してまいりたいと思ひます。

○日高陽一委員 3ページの競技役員養成の部分ですが、既に講習会などが実施されているんですか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 県内の講習会は、国スポに限定した話ではなくて、通常ベースでやっていらっしゃる場所なんですけれども、今回、国スポに向けて特に競技の審判員ですとか要資格運営員を養成しないといけないということで、競技団体がされている中央講習

会の派遣等に対して実行委員会として支援をするというようなことをございます。

○日高陽一委員 競技によっては、審判とかの高齢化が進んでいまして、6年後に審判ができるのかなという方が結構いらっちゃって、例えば、甲子園とかになると審判に立つのに10年かかると言われていまして。そう考えてみると、選手も国体に向けて努力してこられる中で、審判や競技役員のレベルというのは一番重要な部分でもあると思うので、この部分がしっかりと活性化することによって、スポーツランドみやぎの活性化にもつながってくると思うので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

○井上国民スポーツ大会準備課長 今御指摘のありましたとおり、審判あるいは要資格運営員のレベルというのは非常に重要なところだと考えております。

競技の役員数でございますけれども、各県で開催する全ての競技において共通することですけれども、当然、一定レベルのものを確保するという上で、実際に開催するときには、県内だけではなくて県外や中央競技団体から応援をいただく形でやっておられるということでございます。

そういった前提の中で、国スポを機に、県内の審判の方の技術力や数を充実させていこうということで、競技団体ごとに養成の目標をつくっていただいております。今御指摘がありましたように、例えば高齢化の問題とかも含めて、国スポの時期にどのくらい審判員の数を上乘せすべきかを踏まえた上で、高い目標を掲げていただいております。それを踏まえて昨年度から順次取組を進めております。

○日高陽一委員 例えば、現役が最後になる大学4年生とか、そういう方々に声をかけて、審

判というところもあるんだよ、こういう道もあるんだよというようなことを伝えていただいて、6年後、それから6年後の先も見据えてぜひ取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○星原委員 4ページの広報ツールの作成・配布の関係ですが、広報活動の啓発用のポスターなんかは2026となっています。今年、鹿児島での国体が中止になりましたが、中止のままいくのか、あるいは後年度にずれていくことになると、宮崎で開催する年度が変わるかもしれないですね。啓発用のポスターをつくって金をかけていろいろ宣伝しても、ずれる可能性があるわけです。2026年に宮崎はできるのか、ずれるのか、そのあたりの正式な確認は、大会本部に対していつまでに取るつもりなんですか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 御指摘のとおりでございます。随時、中央の日本スポーツ協会にも電話等々で確認をしているところでございます。鹿児島国体については、当然、鹿児島県も主催者の中に入っていると思います。今回の事情で申しますと、鹿児島の知事が今度交代されるということで、任期である27日まで打合せができませんので、その後、速やかに打合せをして決定したいと今のところは伺っております。

○渡辺委員 すいません、これは議論をしようという話じゃないんですが、このポスターは我々のところにも何回か送っていただいております。些末なことを言いますけれども、ロットが小さく僕らは1枚ぐらいずつしかもらわないからかもしれないかもしれませんが、封筒に4つに折り畳んでこのポスターが届いたんですよ。ほかの事業所にどんなふうにお配りになっているのか分からないですけども、いろんな事業体に「貼ってくだ



さい」と県としてお願いをするポスターが、4つに折り畳んで折り目がついているというのは普通考えづらいんじゃないかなと思ったので、せっかく貼ってくださろうとする方にはどうせなら丸めて送るとか、別に答弁は要らないですけども、そう感じました。何回か送っていただきましたが、いずれも4つに折った形で届いていましたので、それだけです。

○横田委員 錦本町に造るプールについてですけども、整備概要の下のほうに、余剰地を活用した民間収益施設も一体整備と書いてありますけれども、この施設も県が造るんですか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 いえ、県で直接造るものではなくて、ある意味、県としては、その余剰地を民間事業者の方にお貸しするというような形になります。

○横田委員 要するに、ショッピングモールみたいな形になるというイメージでよろしいんですよね。

○井上国民スポーツ大会準備課長 基本的には民間の方に自由な発想でお使いいただきたいという前提はございますけれども、一部禁止用途というか、これは駄目ですというのがあります。例えば住宅ですとか、今お話がございましたショッピングモールといった商業施設になりますと、宮崎市の中心市街地計画との整合性とかがございますので、禁止ということで一部指定しておるところでございます。

○横田委員 一体整備ということだから、プールの整備が始まると同時に整備を始めるということなんですか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 公募は入札公告で一体的にやるんですけども、具体的な事業の時期はプールとは若干ずれる可能性もございます。

○横田委員 スポーツ大会を開催するのが令和8年ということでもまだちょっと先ですよ。民間が同時に工事を始めたらかなり早く出来上がってしまって、プールを供用する前に民間収益施設ができてしまってどうするのかと疑問に感じたものですから。どこが入るとかいうのも、この段階で決まってしまうということなんですか。

○井上国民スポーツ大会準備課長 御説明の資料で申し上げますと、入札公告をして技術提案書を受け付けて、それを審査する形になります。その審査の段階で、民間事業者が予定されている内容を把握できるというところでございます。

○重黒木総合政策次長（政策推進担当） すみません、課長の答弁に補足させていただきますけれども、一体整備という意味は、PFI事業であるプールと民間収益事業を同時に提案を受けまして、プールはプール、民間収益施設は民間収益施設で審査するのではなくて、両方一緒に提案していただいて、一緒に審査することによってでございます。提案いただいた計画の中で、恐らくはどういった整備スケジュールでやるかということも含めて、プールと民間収益施設がうまく連動して整備できるような提案を受けて、審査の中でそれが無理のない計画かどうかを見極めていくということになるかと思っております。

○星原委員 もう1点だけお願いなんですけど、13ページの陸上競技場の県産材利用の方針ということであらうってはもらっているんですけど、多分、陸上競技場の周辺には何か所かトイレができるんじゃないかと思うんです。できれば、宮崎県は杉素材の生産量の日本一を続けている県なので、瓦をかけたような和風のトイレが周辺にできないかなと思います。宮崎県をPRするため

には、全国から見えての開会式・閉会式をやろうとしているのであれば、周辺のトイレなんか木造にすればどうかと思うんですが、検討してもらって、ぜひ木材を使ってもらいたいと思います。

**○井上国民スポーツ大会準備課長** 陸上競技場につきましては県と都城市が協力して整備するというところでございますが、今御指摘のありましたとおり、木造で対応できるものは積極的に検討を進めるように都城市とも一緒になって考えていきたいと考えております。

**○日高陽一委員** 先ほど、ロードがまだ決まっていないという話でしたけれども、今、自転車がどんどん世界的にもブームになってきているようです。日本ではしまなみ海道が聖地と言われていて、全国やアジアからもどんどん人が来るような場所なんです。海外のブランドのジャイアントというところが主催で動いていて、今はしまなみ海道というところすごいです。

日本の自転車会社から、日南海岸も本当にすばらしいところだ、ここを使って何かやりたいという話も聞きますので、そこをPRしないわけにはいかないと思うので、日南海岸という宮崎の宝のようなところをぜひ選定の中に入れてほしいと思います。要望でございます。

**○窪菌委員長** ほかにございませんか。

**○渡邊総合政策部長** 様々な御指摘、御意見をいただきましてありがとうございます。2巡目国スポ・障スポでありますけれども、星原委員のほうからございましたとおり、そもそも地域分散型でやっていこうということでスタートしたものでございます。そういったこともありまして、いわゆる主要3施設と言われます陸上競技場、プール、体育館、これについても県央だけではなく、都城、延岡とバランスよく配置を

したところでございます。結果的に現在、26市町村のうち22市町村で何らかの大会を開いていただくことになっております。そういったことによってスポーツランドの全県展開を進めていくということ、そして、2点目としては、それを踏まえて地域振興にもつなげていこうと、住民の盛り上がり、そういったことも波及効果としてあるのではないかなということでございます。

そのほかにも、宿泊の問題ですとか、輸送の問題の御指摘もございましたけれども、これにつきましては、3ページにございます各専門委員会の中で、例えば、宿泊・衛生の専門委員会では宿泊施設の確保をどうするのかとか、輸送の専門委員会では、大変混み合うと思いますので、輸送計画をどうしていこうとか、そういったことをこれから本番に向けてしっかり進めていこうと思っております。

この資料の中にもありますけれども、県の準備委員会の構成メンバーは本当に様々な県全体のところで成り立っておりますので、まさにオール宮崎でこの大会を成功させていきたいと思っておりますので、今後とも御指導のほどよろしく願いいたしますと存じます。

**○窪菌委員長** ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

**○窪菌委員長** よろしいですね。

それでは、ほかに質疑がないようでございますので、これで終わりたいと思います。

執行部の皆さんには御退席いただきまして結構でございます。大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

暫時休憩いたします。

午前11時19分休憩

---

午前11時20分再開

**○窪菌委員長** 委員会を再開いたします。

それでは、協議事項（1）の県内調査についてであります。

まず、7月28日から7月29日実施予定の県南調査につきましては、資料1のとおり実施いたします。

先日お配りしました出席依頼文にも記載しましたが、鹿児島市内でコロナウイルスの感染者が多数発生したため、行程を一部変更しておりますので、御了承ください。

なお、このような状況ですので、新型コロナウイルス感染症対策として、当日の朝、検温やマスクの着用等に御留意くださるようお願いいたします。

続いて、8月25日から8月26日に実施予定の県北調査ですが、資料2を御覧ください。

前回の委員会におきまして、県内調査先についても正副委員長に一任いただきましたので、御覧のような日程案を作成いたしました。

8月25日ですが、まず、延岡星雲高校を訪問し、未普及競技の指導に当たっての課題、アーチェリー場の新設予定箇所について調査する予定です。

次に、日向市教育委員会を訪問いたします。中学校における競技力向上の取組等について調査する予定でございます。

調査後は、日向市内にて宿泊予定でございます。

翌26日は、一般社団法人ツノスポーツコミッションにお話をお伺いします。スポーツ合宿・大会の誘致についてお話を伺うほか、都農町と連携して実施されているつの職育プロジェクトについて伺う予定でございます。

次に、木城町のいしかわうちを訪問いたしま

す。スポーツ合宿施設であるいしかわうちの御紹介をいただくほか、役場の担当課とスポーツ合宿の受入れに関する課題について意見交換を行う予定でございます。

最後に、新富町役場を訪問いたします。サッカースタジアムを中心としたまちづくりの展望について御紹介いただくほか、国体やスポーツ合宿受入れに関する課題について意見交換を行う予定でございます。

以上のような行程で考えております。

なお、県北調査につきましては、調査先との調整をある程度進めておりますので、できればこの案で御了承いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○窪菌委員長** それでは、異議なしということで、そのように決定いたします。

なお、諸般の事情により、若干の変更が出る場合もあるかもしれませんが、正副委員長に御一任いただきますようお願いいたします。

なお、調査時の服装につきましては、夏季軽装でお願いいたします。クールビズです。

次に、協議事項（2）の県外調査については、10月12日から14日の日程で予定しております。

今回の委員会は9月23日となりますので、時間がないことから、今回御協議いただきたいと思っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響等により、仮に10月に実施できない場合についてありますが、特別委員会は11月議会直後には報告書の作成に取りかかる必要がありますことから、延期して実施することは困難ではないかと思われま

す。暫時休憩いたします。

午前11時24分休憩

---

午前11時27分再開

○窪菌委員長 委員会を再開いたします。

予定どおり実施する方向で準備を進めることとなった場合ですが、意見が特別ございませんでしたので、具体的な調査先や行程については正副委員長に御一任いただきたく存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 なお、調査先や実施の不可につきましては、8月下旬に判断させていただきたいと存じますが、こちらも正副委員長に御一任いただきますことで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、そのようにいたします。

次に、協議事項（3）次回委員会についてであります。

次回委員会につきましては、9月23日水曜日開催を予定しております。

執行部への説明資料等の請求等について、何か御意見や御要望はありませんか。

暫時休憩いたします。

午前11時28分休憩

---

午前11時29分再開

○窪菌委員長 委員会を再開いたします。

ただいまの御意見を参考にして、次回の委員会の説明資料等を要求したいと思います。よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 それでは、最後に、協議事項（4）その他で委員会の皆さんから何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○窪菌委員長 次回の日程でございますが、次回の委員会は9月23日水曜日午前10時からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の委員会を閉会いたします。

午前11時31分閉会

署 名

スポーツ振興対策特別委員会委員長 窪 菌 辰 也

